



エコアクション21

エコアクション21

平成28年度環境活動レポート

平成30年04月01日

有限会社品田商会

対象期間：平成28年10月1日～平成29年9月30日



目次

- 第1章 環境方針
- 第2章 環境目標とその実績
- 第3章 環境活動計画・環境活動の取組結果の評価、次年度の取組内容
- 第4章 新規・継続の取組
- 第5章 環境関連法規等の遵守状況、訴訟等の有無
- 第6章 組織の概要
- 第7章 代表者による全体評価と見直し

第1章 環境方針

【 環 境 方 針 】

●環境理念

有限会社品田商会は、これからの循環型環境社会に対応するため、地球環境と調和した正しいリサイクルの推進と適切な廃棄処理を実施することで、人と車にやさしい自動車サービス業を目指します。

●活動方針

有限会社品田商会は、環境との共生、調和を最重要課題として認識し、自ら責任を持ち全従業員あがって環境負荷の改善に配慮した活動に取り組みます。

(1) 省資源・省エネルギー活動の推進

事業所内の整理・整頓・清潔・清掃に留意し、事業活動に於ける電力・紙・水道等の資源、石油等化石エネルギーの使用量の削減等環境負荷の改善に努めます。

(2) エコドライブ等によるCO2削減の推進

停車時の無駄なアイドリングをはじめとするエコドライブによる環境負荷への低減を推進します。

(3) 一般廃棄物を削減する

事務所から出る廃棄物を最小限にする努力をし、分別処理を推進します。

(4) 上水使用量の削減をする

事務所内で使用する水量を削減します。

(5) 自動車リサイクル法の遵守

交換部品等の正しい廃棄物処理を実施するとともに、リサイクルパーツの推進に努めます。

(6) グリーン購入の推進

製品購入の際はグリーン対象製品の購入に努めます。

(7) 化学物質使用量の使用量把握・管理

特定化学物質「PRTR法」に基づいて排出量及び適正管理に努めます。

(8) 環境に関する法律を遵守します。

(9) 先進対応車検車の販売比率を高める

旧平成21年10月01日

改定平成27年10月01日

有限会社 品田商会
代表取締役 品田庄一

配布先：ホームページ

第2章 環境目標とその実績

基準年度 整備センター

項目		平成 25 年度
二酸化炭素排出量（電力）	電力 (kg-CO2)	16,653
一般廃棄物の削減（総量）	総量 (kg)	2,439
リサイクルパーツ使用（金額総額）	金額総額（千円）	2,159
上水道使用量の削減（総量）	総量 (m ³)	643
グリーン購入（比率の向上）	比率 (%)	42%

1. 平成 26 年度～平成 28 年度の環境目標と実績 整備センター

項目		26 年度	27 年度	28 年度	
二酸化炭素排出量	(電力)Kg-CO2	目標	16,403	16,320	16,153
		実績	16,233	16,295	15,852
一般廃棄物量	(総量)kg	目標	2,390	2,341	2,244
		実績	2,397	2,315	2,408
リサイクルパーツの使用	(金額総額)千円	目標	2,267	2,331	2,375
		実績	1,793	1,432	1,365
上水道使用量	(総量)m ³	目標	630	617	604
		実績	559	579	542
グリーン購入	(比率)%	目標	35	38	40
		実績	45	39	42

※購入電力の二酸化炭素係数は 2012 年度の東北電力株式会社の実排出係数 0.6kg-CO2/kwh を使用。

※グリーン購入に関しては、整備センターで決済するので、整備センターのみ設定。

※H26 年度以降の二酸化炭素排出削減は項目を絞り実施する。

※産業廃棄物は、仕事の性質上削減は困難なため、適正管理を行う。

※PRTR 法化学物質（化学物質）は、1 t 未満の為報告義務はない。仕事の性質上削減は困難なので適正管理する。

※H29 年度に電力係数の確認を行う。

※H29 年度よりリサイクルパーツの数値目標はグリーンポイントクラブと早稲田大学の CO2 換算値を使用し、毎年 1,000kg-co₂ 以上の削減目標に変更する。

第2章 環境目標とその実績

基準年度 原町営業所

項目		平成25年度
二酸化炭素排出量（自動車燃料）	燃料（kg-CO ₂ ）	4,475
一般廃棄物の削減（総量）	総量（kg）	215
上水道使用量の削減（総量）	総量（m ³ ）	91

2. 平成26年度～平成28年度の環境目標と実績 原町営業所

項目			26年度	27年度	28年度
二酸化炭素排出量	（自動車燃料）Kg-CO ₂	目標	4,430	4,408	4,386
		実績	3,555	3,447	3,487
一般廃棄物量	（総量）kg	目標	214	213	212
		実績	213	203	194
上水道使用量	（総量）m ³	目標	90	89	88
		実績	81	66	73

※H26年度以降の二酸化炭素排出削減は項目を絞り実施する。

第2章 環境目標とその実績

基準年度 ENEOS 松波給油所

項目		平成 25 年度
二酸化炭素排出量（自動車燃料）	燃料（kg-CO2）	6,485
一般廃棄物の削減（総量）	総量（kg）	559

3. 平成 26 年度～平成 28 年度の環境目標と実績 ENEOS 松波給油所

項目			26 年度	27 年度	28 年度
二酸化炭素排出量	（自動車燃料）Kg-CO2	目標	6,387	6,225	6,160
		実績	7,793	6,726	5,953
一般廃棄物量	（総量）kg	目標	548	542	531
		実績	496	513	502

※H26 年度以降の二酸化炭素排出削減は項目を絞り実施する。

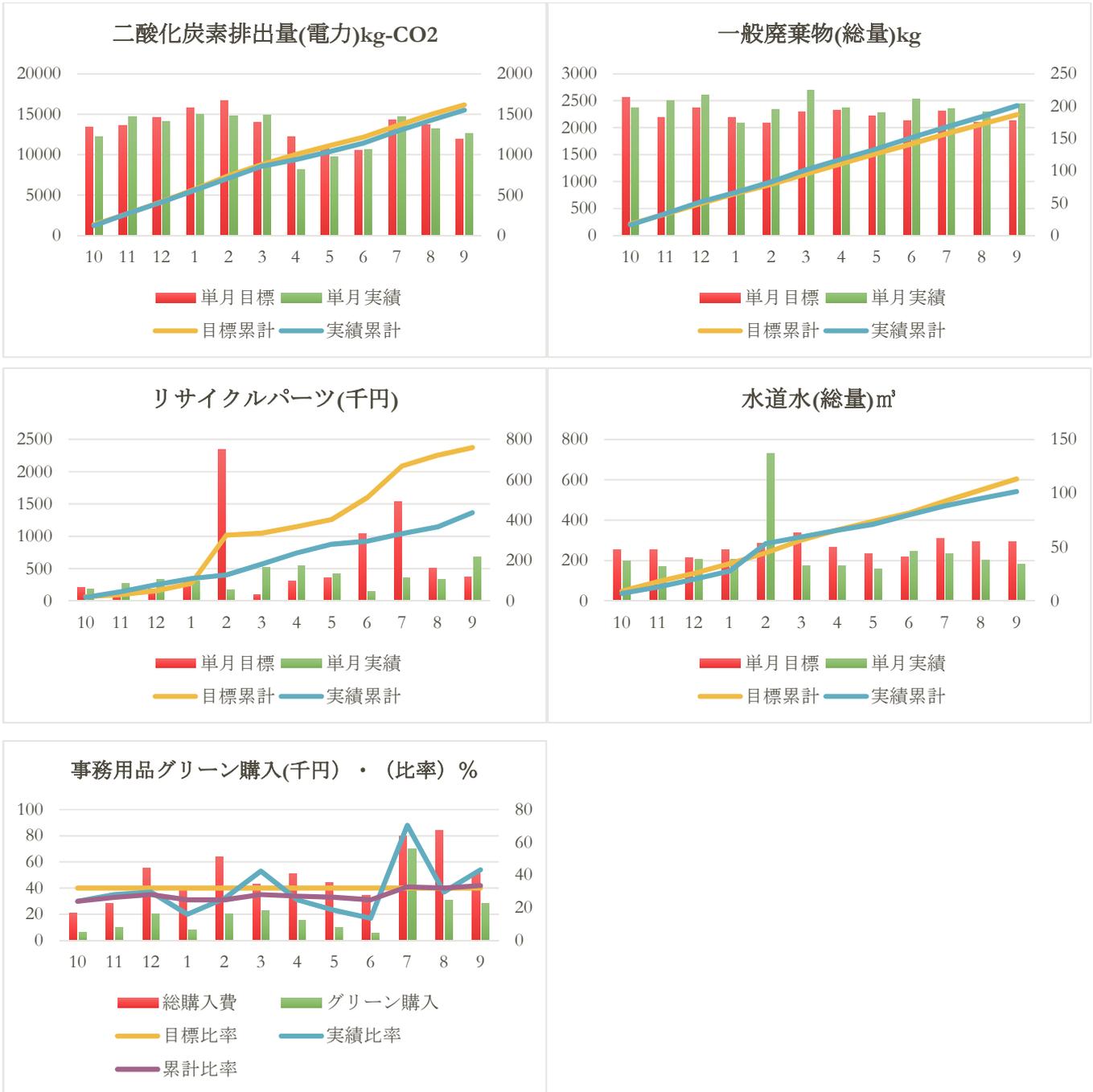
※産業廃棄物は、仕事の性質上削減は困難なため、適正管理を行う。

4. 全社全項目の二酸化炭素排出量の実績

項目	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度
二酸化炭素排出量 （総量 kg-CO2）	110,511	113,437	103,236	106,713

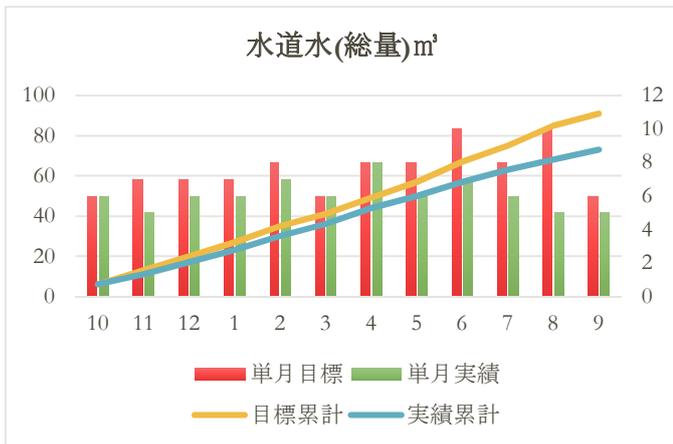
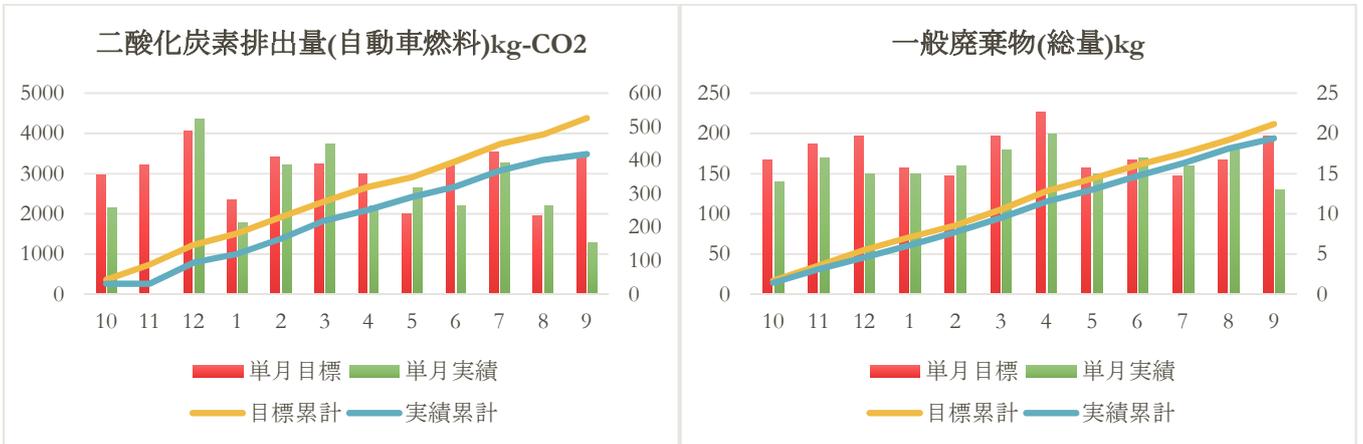
第2章 環境目標とその実績

整備センター

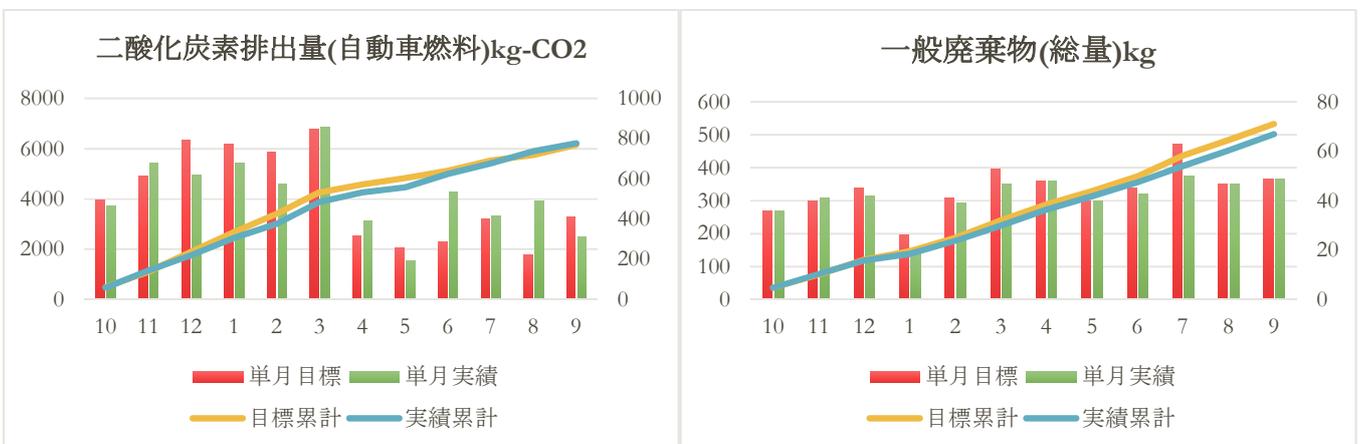


第2章 環境目標とその実績

原町営業所



ENEOS 松波給油所



第2章 環境目標とその実績(考察)

共通項目

- 1) 当年10月から翌年9月です
- 2) 平成26年度より平成25年度の実績値を基に3カ年計画とする。

整備センター

- 1) 二酸化炭素排出量（電力）
目標達成率 **102%**、単月での目標値ではオーバーする時もあったが、全体を通して目標を達成することが出来た。
- 2) 一般廃棄物の削減
目標達成率 **93%**、単月目標を下回る時もあったが、増加月の量が多く全体的には目標達成が出来なかった。
- 3) 上水使用量の削減
目標達成率 **110%**、2月に漏水により大幅に増えたがそれ以上に節水意識を持って取り組んだことにより大幅削減が出来た。
- 4) リサイクルパーツは年度実績値になります。
- 5) 事務用品のグリーン購入
目標40%に対して本年度 **42%**を達成出来た。

原町営業所

- 1) 二酸化炭素排出量の削減（自動車燃料）
目標達成率 **120%**、各月バラつきはあったが大幅に削減し目標達成することが出来た。
- 2) 一般廃棄物の削減
目標達成率 **108%**、単月目標では3ヶ月で増加したが、他の月で削減出来た為、目標達成することが出来た。
- 3) 上水使用量の削減
目標達成率 **117%**、全月を通して削減もしくは同等であった為、目標達成することが出来た。

ENEOS 松波給油所

- 1) 二酸化炭素排出量の削減（自動車燃料）
目標達成率 **103%**、軽油に関しては仕事内容に左右されるため増加月もあったが、目標達成することが出来た。
- 2) 一般廃棄物の削減
目標達成率 **105%**、11月に目標を若干オーバーしたが全月を通して削減が出来た為、目標達成することが出来た。

第3章 環境活動計画・取組結果とその評価、次年度の取組内容

1. 整備センター

No	環境目標	環境活動計画の内容	取組結果の評価	次年度の取組
1	二酸化炭素排出量の削減(電力)	稼働時間に対する、電力使用の管理	不要時の消灯などこまめな節電活動を心がけました。	室内照明および工場内のLED化・稼働時間に対する電気使用の管理
2	一般廃棄物の削減(総量)	ペーパーレス(電子)化	連絡事項などをメールなどで行い電子化裏紙はメモ紙として再利用を行った。	ペーパー類の再利用 ペーパーレス(電子)化 分別の徹底
3	リサイクルパーツの使用(金額総量)	お客様への積極的推進・提示	待合室などに、案内文を置きリサイクル部品使用の推進を行った。	お客様への積極的推進・案内の室内掲示
4	上水道使用量の削減	事務所側ならびに工場側の節水に努める。	洗車時の下準備をし、動きに無駄のないように努め、止水可能なシャワーノズルを取り付けた。	不要な使用を控え、節水に努める。
5	グリーン購入(比率向上)	必要用品の品目よりグリーン購入対象品目の購入	目標比率を選定し、購入時に品目の選定を行った	必要用品の品目よりグリーン購入対象品目の購入。

2. 原町営業所

No	環境目標	環境活動計画の内容	取組結果の評価	次年度の取組
1	二酸化炭素排出量の削減(自動車燃料)	エコドライブの推進	電気自動車の使用ならびにエコドライブの実践	エコドライブの推進
2	一般廃棄物の削減(総量)	社内連絡文章の電子化	連絡事項や記録などを、メールや電子化により保存記録を行った。	分別の徹底・整理整頓に努める。
3	上水道使用量の削減	生活用水に対する節水	使用目的に応じた節水が出来た。	生活用水に対する節水の徹底。

3. ENEOS 松波給油所

No	環境目標	環境活動計画の内容	取組結果の評価	次年度の取組
1	二酸化炭素排出量の削減(自動車燃料)	エコドライブの推進	移動時に電気自動車を使用。	エコドライブの推進
2	一般廃棄物の削減(総量)	ペーパーレス化	連絡事項や記録を出来る範囲で電子化を行った。	分別の徹底・整理整頓に努める。 ペーパーレス(電子)化の推進

第4章 新規・継続の取組

1. 北陸信越運輸局長からの表彰受賞『地球にやさしい自動車関連事業所』

2. 東京商工会議所主催の環境社会検定試験（ECO 検定）に現在 10 名が合格

3. 新潟県エコ事業所認定制度登録事業所

4. 新潟県街中充電ネットワークへ参加、EV・phv 用、倍速充電器の設置

5. EV 自動車の社用車導入（i-MiEV2 台・リーフ 1 台）

6. 営業車両の削減および EV 自動車の使用

7. 一部照明（蛍光灯）を LED 化

8. 環境車検の導入、燃費向上整備の導入

9. 柏崎 EC02 プロジェクトに参加

10. 原町営業所の紫外線断熱フィルム施工

11. ENEOS 松波給油所へのソーラーパネル設置



第5章 環境関連法規等の遵守状況、訴訟等の有無

1. 環境関連法規の遵守状況を自らチェックし、違反はありません。

No	法規等
1)	水質汚濁防止法
2)	騒音規制法
3)	新道規制法
4)	廃棄物の処理及び清掃に関する法律
5)	消防法・柏崎市火災予防条例
6)	使用済み自動車の再資源化等に関する法律・リサイクル法
7)	道路運送車両法
8)	浄化槽法
9)	PRTR 法
10)	グリーン購入法
11)	フロン排出抑制法

2. 関係当局からの違反の指摘は、過去3年間ありません。

3. 訴訟も、過去3年間ありません。

第6章 組織の概要

『 認証登録範囲 : 全組織・全活動 』

No	項目	内容	
1	事業所および代表者氏名	有限会社品田商会整備センター 代表取締役 品田庄一	
2	所在地	〒945-0011 新潟県柏崎市松波4丁目1番63号	
3	環境管理責任者氏名および担当者連絡先	環境管理責任者	代表取締役 品田庄一
		担当者	野田 和孝
		連絡先	TEL 0257-23-2227
			FAX 0257-23-2247
4	事業内容	自動車販売整備業、カーリース&レンタカー業、損保代理店業	
5	許認可	新潟陸運局支局長 指定整備事業者番号 5507	
6	事業規模	従業員	16名 (平成28年10月01日現在)
		土地面積	2,277 m ² (平成28年10月01日現在)
		延床面積	818.45 m ² (平成28年10月01日現在)
7	事業所名	原町営業所(ユーロヴァーン)	
8	所在地	〒945-0023 新潟県柏崎市原町6番48号	
9	連絡先	連絡先	TEL 0257-21-3335
			FAX 0257-22-0335
10	事業内容	自動車販売、カーリース&レンタカー業、損保代理店業	
11	事業の規模	従業員	4名 (平成28年10月01日現在)
		土地面積	1,450.09 m ² (平成28年10月01日現在)
		延床面積	149.93 m ² (平成28年10月01日現在)
12	事業所名	ENEOS 松波給油所(サービスステーション)	
13	所在地	〒945-0011 新潟県柏崎市松波2丁目2番13号	
14	連絡先	連絡先	TEL 0257-23-1324
			FAX 0257-23-3839
15	事業内容	石油製品小売販売業	
16	事業規模	従業員	6名 (平成28年10月01日現在)
		土地面積	1,423.39 m ² (平成28年10月01日現在)
		延床面積	210.25 m ² (平成28年10月01日現在)
17	許認可	危険物取扱所許可番号 柏崎市長 第 143 号	

第7章 代表者による全体評価と見直し結果

全体的には概ね良好と捉えています。未達成であった三項目中についても例年のごとく、仕事量に影響する部分があるために今後も数字をしっかりと注視していきたいと思えます。

三事業所ともエコ検定合格者が居ますが、目標である社員の1/2以上が取得できるよう今後も進めていきたいと思えます。

また、おかげさまで昨年はエコアクション21取得後連続5回更新で10年での感謝状を中央事務局より戴くことが出来ました。今後も社員一人一人が自ら自発的に「環境」を配慮した行動がとれるような社風の構築と、更なる「環境」に対する意識の醸成に全社員で取り組んでいきたいと思えます。